

科目名		視覚機能検査学演習			分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員		◎教授 木田淳子						
課程		博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要		視覚機能異常および瞳孔異常について考察する。						
授業の到達目標		①視覚機能異常については視神経疾患および脳疾患、瞳孔異常について概説できる。 ②視覚機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。						
授業計画	回数	担当者			行動目標			
	1	木田 淳子	教 授		神経の基本構造について説明できる。			
	2	木田 淳子	教 授		中枢神経と末梢神経について説明できる。			
	3	木田 淳子	教 授		交感神経とその経路について説明できる。			
	4	木田 淳子	教 授		副交感神経とその経路について説明できる。			
	5	木田 淳子	教 授		神経学的検査手順について説明できる。			
	6	木田 淳子	教 授		瞳孔の解剖と対光反射について説明できる。			
	7	木田 淳子	教 授		瞳孔の検査について説明できる。			
	8	木田 淳子	教 授		病的散瞳について説明できる。			
	9	木田 淳子	教 授		病的散瞳の代表的疾患について説明できる。			
	10	木田 淳子	教 授		病的縮瞳について説明できる。			
	11	木田 淳子	教 授		病的縮瞳の代表的疾患について説明できる。			
	12	木田 淳子	教 授		瞳孔と調節の関係について説明できる。			
	13	木田 淳子	教 授		瞳孔異常をきたす代表的視神経疾患について説明できる。			
	14	木田 淳子	教 授		瞳孔異常をきたす代表的脳疾患について説明できる。			
	15	木田 淳子	教 授		講義の振り返りと習熟度確認			
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおく。 回回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておく。					
		【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し復習しておく。					
		【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書		丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子:「視能学」第2版文光堂 Paul L, Kaufman&Albert Alm : Adler’s Physiology Of The Eye, Clinical Application, 10th Edition, Mosby 2002						
参考書								
成績評価の方法および基準		レポート50%、口頭試問50% 欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。						
その他履修上の注意事項		試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップDPI(視能矯正学の基盤となる学識を習得し実践することができる。)を参照し理解すること。						